

船の事故	発生日	発生日	発生日	事故形態
	11月29日（月）	福岡県	漁船	運航不能（推進器障害）
	11月29日（月）	佐賀県	プレジャーボート	運航不能（機関故障）
	11月29日（月）	佐賀県	プレジャーボート	運航不能（機関故障）
	11月30日（火）	長崎県	作業船	火災
	12月1日（水）	福岡県	貨物船	乗揚
	12月3日（金）	大分県	漁船	運航不能（推進器障害）
12月3日（金）	大分県	漁船	運航不能（その他）	
人の事故	発生日	発生日	事故区分	事故内容
	12月5日（日）	大分県	マリレ以外の海浜事故	海中転落

荒天による 走錨に注意しましょう

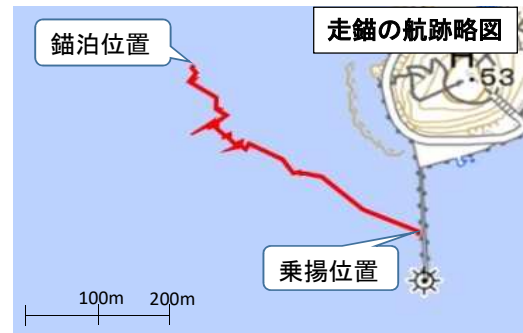
【問合せ先】
第七管区海上保安本部交通部 安全対策課長 浦川
安全対策調整官 川部
Tel: 093-321-2931（内線2640）

【事事故事例】

令和3年11月30日20:20頃、事故船舶は関門港内の錨地（水深20m）で、荷役待ちのため錨泊（左舷3節使用）を開始した。同日22:00頃、船長が風速を確認すると約15メートルの西風が吹いていたが、錨泊状態は安定しており、このまま錨泊を継続することが可能と判断し、船橋当直を配置せず居室で就寝した。翌12月1日03:00頃、船長は異常を感じて、船橋に昇橋したところ、約1.2ノットで東向け走錨しており、自船船尾約100メートルに防波堤を認め、慌てて機関を起動するも時すでに遅く、同日03:20頃、防波堤付近の浅瀬に乗揚げたもの。



乗揚げた状況



錨泊位置

走錨の航跡略図

乗揚げ位置

走錨による海難を防止するには

・気象・海象の把握

これからの季節、急な荒天が予想されます、気象情報から風向風速の変化やうねりの入り込み、低気圧に関する情報など常に最新の情報確認が重要です。

・アンカーワッチ体制の強化

錨泊中であっても見張りを怠ることなく、常に船橋にアンカーワッチを配置して自船及び他船の動向に注意することが重要です。

・国際VHF（16ch）の常時聴取

関門海峡では、関門海峡海上交通センターから走錨注意情報や、もじほあんから気象警報の情報提供がなされます。

また、他の船舶等から注意喚起がなされる場合があるので、AIS（船舶自動識別装置）を作動させ、VHF16chを常時聴取しておきましょう。

・水深と気象条件に応じた錨泊方法

錨泊する際は、錨地の物理的特性や、海域の水深と予想される気象条件に応じて、錨地を選定し、錨泊方法や使用錨鎖の長さを決めることが重要です。

・走錨した場合に備え

直ちに機関を使用できるようにしておき、走錨した場合、機関を使用し圧流を防ぎ、危険と判断すれば揚錨して安全な錨地に転錨しましょう。

詳しくは、走錨事故防止に役立つ情報を掲載している「走錨事故防止ポータルサイト」をご覧ください。

<https://www.kaiho.mlit.go.jp/mission/kaijyoukoutsu/soubyo.html>

